

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホリゾン キンランカイクケン 学校法人 金蘭会学園								
フリガナ大学の名称	センリキンランカイクケン 千里金蘭大学大学院 (Graduate School of Senrikinran University)								
大学本部の位置	大阪府吹田市藤白台5丁目25番1号								
大学の目的	千里金蘭大学大学院では、「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」を担うべき人材養成機能とし、「優れた研究能力等を備えた医療系人材の養成」を主たる目的として、「学部段階の教育で養成された看護学分野の基礎的かつ基本的な資質能力の習得を前提として、専門性の一層の向上を図るための深い知的学識の涵養と基礎的な研究能力を培う」ことを目的とする。								
新設学部等の目的	看護学研究科看護学専攻修士課程では、学部教育で修得した看護学及び看護実践に関する専門的知識や能力を一層深化させるとともに、看護実践に関する諸課題を科学的に探究するための知識や手法を身に付けることにより、看護学に関する高度な知識に裏打ちされた質の高い看護ケアの提供ができる能力や看護実践の場で生じる課題を探究し、その成果を看護実践の質の改善や向上に活かすことのできる能力を有した看護職者を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部看護学科
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻 (Division of Nursing) 計	年 2	人 6	年次人 -	人 12	修士 (看護学) 【Master of Nursing】	年月 第年次 令和4年4月 第1年次	大阪府吹田市藤白台5丁目25番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計	9人 (9)	3人 (3)	一人 (一)	一人 (一)	12人 (12)	0人 (0)	11人 (11)
	既設分	該当なし	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)
		計	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)	一人 (一)
合計		9人 (9)	3人 (3)	一人 (一)	一人 (一)	12人 (12)	0人 (0)	11人 (11)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	28人 (28)	15人 (15)		43人 (43)		大学全体		
	技術職員	一人 (一)	一人 (一)		一人 (一)				
	図書館専門職員	1人 (1)	2人 (2)		3人 (3)				
	その他の職員	一人 (一)	2人 (2)		2人 (2)				
計		29人 (29)	19人 (19)		48人 (48)				

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地		11,816 m ²	0 m ²	0 m ²	11,816 m ²				
	運 動 場 用 地		38,667 m ²	0 m ²	0 m ²	38,667 m ²				
	小 計		50,483 m ²	0 m ²	0 m ²	50,483 m ²				
	そ の 他		0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
合 計		50,483 m ²	0 m ²	0 m ²	50,483 m ²					
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
			38,801.74 m ² (38,801.74 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	38,801.74 m ² (38,801.74 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				大学全体	
	28室	27室	24室	6室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 1人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称 看護学研究科看護学専攻		室 数 12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定 不能なため、大学全 体の数		
	看護学研究科看護学専攻	206,454 [33,774]	3,799 [2,336]	3,635 [2,300]	804					
	計	206,454 [33,774]	3,799 [2,336]	3,635 [2,300]	804					
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
		2,462m ²		381		210,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,181.30m ²		テニスコート5面		ゴルフ練習場				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出 不能なため、学部と の合計
		教員1人当り研究費等		250千円	300千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	—	—	—	—	
		図書購入費	1,286千円	1,270千円	1,270千円	—	—	—	—	
	設備購入費	3,195千円	1,000千円	1,000千円	—	—	—	—	図書費には電子 ジャーナル・デー ターベースの整備 費、その他の経費 (運用コスト含む) を含む	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		900千円	700千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収益等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		千里金蘭大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	看護学部 看護学科	4	90	-	360	学士 (看護学)	1.13 1.13	平成20 年度	大阪府吹田市藤白 台5丁目25番1号	
	生活科学部 食物栄養学科	4	80	-	320	学士 (栄養学)	0.79 0.77	平成15 年度		
	児童教育学科	4	70	-	280	学士 (児童学)	0.80	平成19 年度		
附属施設の概要		特になし								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤科目	保健医療学特論	1前	2			○			2					兼1	オムニバス
	ヘルスプロモーション特論	1前	2			○			1	1				兼1	オムニバス
	医療安全特論	1後		2		○	※	※	1					兼1	オムニバス ※演習・実習
	保健統計特論	1後		2		○								兼1	
	医療情報特論	1後		2		○								兼1	
	小計（5科目）	—	4	6	0	—			4	1	0	0	0	兼5	—
共通科目	看護倫理特論	1前		2		○			2	1				兼1	オムニバス
	看護理論特論	1前		2		○								兼1	オムニバス
	フィジカルアセスメント特論	1前		2		○	※	※		1				兼1	オムニバス ※演習・実習
	看護管理特論	1後		2		○			2					兼1	オムニバス
	臨床病態生理学特論	1後		2		○	※		1					兼2	オムニバス ※演習
	臨床推論特論	1後		2		○	※	※		1				兼1	共同 ※演習・実習
	臨床薬理学特論	1後		2		○	※							兼1	※演習
	疾病・臨床病態特論	1後		2		○	※		1					兼1	オムニバス ※演習
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			5	2	0	0	0	兼7	—
領域科目	療養生活支援看護特論	1前・後		4		○			3	2					オムニバス
	療養生活支援看護演習	2前		2			○		3	2					共同
	地域・家族支援看護特論	1前・後		4		○			4	1					オムニバス
	地域・家族支援看護演習	2前		2			○		4	1					共同
	小計（4科目）	—	0	12	0	—			7	3	0	0	0	0	—
研究科目	看護研究方法	1前	2			○			1						
	看護特別研究	1～2通	8					○	9	3					
	小計（2科目）	—	10	0	0	—			9	3	0	0	0	0	—
合計（19科目）		—	14	34	0	—			9	3	0	0	0	兼11	—
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）						
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了要件は、体系的に教育の課程を履修し、修了に必要な単位数として、「基盤科目」から必修科目2科目4単位、選択科目1科目2単位以上、「共通科目」から選択科目4科目8単位以上、「領域科目」から選択科目2科目6単位（領域科目の2領域のうち1領域を選択し、当該領域の特論科目1科目4単位と同一領域の演習科目1科目2単位を取得）、「研究科目」から必修科目2科目10単位を取得の合計30単位以上を修得するとともに、研究指導教員による研究指導を受けて、修士論文を作成し、論文審査、論文発表会及び口頭試問による最終試験に合格した者に対して「修士（看護学）」の学位を授与する。							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要																
(基礎となる学部：看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	初年度教育	社会貢献論	1	1		○									兼1	
		女性のライフサイエンス	1	1		○			2						兼5	オムニバス
		スタディスキルズ	1	2		○	※								兼2	※演習
		情報機器の操作Ⅰ	1	1			○								兼2	
		情報機器の操作Ⅱ	1	1			○								兼2	
		基礎数学	1	2		○									兼1	
		基礎化学	1	2		○									兼1	
	基礎生物	1	2		○									兼1		
	就業力	日本語表現	1・2・3・4	2		○	※								兼2	※演習
		現代社会論	1・2・3・4	2		○									兼1	
		情報社会と倫理	1・2・3・4	2		○									兼1	
		キャリア形成	3・4	2		○									兼1	
	品格教育	インターンシップ	2・3・4	2		○	※								兼1	※実習
		茶道	1・2・3・4	2			○								兼4	
		書道	1・2・3・4	2			○								兼1	
		音楽	1・2・3・4	2			○								兼1	
	歴史・言葉・知恵の教育	現代礼法	1・2・3・4	2		○	※								兼1	※実習
		日本の文化と歴史	1・2・3・4	2		○									兼1	
		世界の文化と歴史	1・2・3・4	2		○									兼1	
		文学	1・2・3・4	2		○									兼2	
		哲学	1・2・3・4	2		○									兼1	
		異文化理解	1・2・3・4	2		○									兼1	
		環境論	1・2・3・4	2		○									兼1	
		人権論	1・2・3・4	2		○									兼1	
		生涯学習論	1・2・3・4	2		○									兼1	
	健康からの教育	日本国憲法	1・2・3・4	2		○									兼1	
		異文化理解演習(海外)	1・2・3・4	2			○								兼1	
		健康スポーツ実習	1・2・3・4	1			○								兼1	
		生涯スポーツ実習	1・2・3・4	1			○								兼1	
	外国語教育	人間の心理と行動	1・2・3・4	2		○									兼1	
		こころと健康	1・2・3・4	2		○									兼1	
		総合英語A	1・2・3・4	1		○									兼1	
		総合英語B	1・2・3・4	1		○									兼1	
		英語コミュニケーションⅠ	1・2・3・4	1			○								兼2	
		英語コミュニケーションⅡ	1・2・3・4	1			○								兼2	
		英語コミュニケーションⅢ	2・3・4	1			○								兼2	
		英語コミュニケーションⅣ	2・3・4	1			○								兼2	
		ハングルⅠ	1・2・3・4	1			○								兼1	
		ハングルⅡ	1・2・3・4	1			○								兼1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4	1			○								兼1		
	中国語Ⅱ	1・2・3・4	1			○								兼1		
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4	1			○								兼1		
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4	1			○								兼1		
小計(43科目)			—	6	64	0	—			2	0	0	0	0	兼27	—
専門基礎分野	生命と科学	解剖学Ⅰ	1前	2		○			1							
		生理学Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		解剖学Ⅱ	1後	2		○			1							
		生理学Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		解剖生理学演習	2後	1		○	※		1			10			兼1	※オムニバス、一部共同
		臨床栄養学	2後	1		○									兼1	
		生化学・人類遺伝学	1前	1		○									兼1	
	健康と疾病	病原微生物学	1後	2		○			1							
		病理病態学	2前	2		○									兼1	
		疫学	2後	2		○									兼1	
		保健統計学	2前	2		○									兼1	
	社会と保健・福祉	臨床薬理学	2前	2		○									兼1	
		看護情報学演習	2後	1		○	※								兼1	
		発達心理学	1後	2		○					1					
		健康社会学	2後	2		○									兼1	
		看護倫理	2後	1		○									兼1	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	2前	2		○									兼1	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	保健医療福祉行政論Ⅱ	3前	1		○								兼1		
		国際保健学	1後	1		○								兼1		
		看護学概論	1前	2		○			1							
		看護技術論	1後	2		○				1						
		基礎看護技術演習Ⅰ	1後	2			○		1	1	2	2			共同	
基礎看護技術演習Ⅱ	2前	2			○		1	1	2	2			共同			
基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			○		1	1	2	2			共同			
基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			○		1	1	3	11	1		共同			
基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			○		1	1	2	8	1		共同			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	成人看護学	成人保健医療学演習Ⅰ	2前	1			○			1					兼2	オムニバス	
		成人保健医療学演習Ⅱ	2前	1			○								兼1		
		成人看護対象論	2後	2			○			2						オムニバス	
		成人看護援助論演習Ⅰ	3前	1				○		1		1	1			共同	
		成人看護援助論演習Ⅱ	3前	1				○		1			2			共同	
		成人看護援助論演習Ⅲ	3後	1				○		2		1	3			共同	
		成人看護学実習Ⅰ	3後	3					○	1		1	1			共同	
		成人看護学実習Ⅱ	3後	3					○	1			2			共同	
	老年看護学	老年保健医療学演習	2前	1			○								兼1		
		老年看護対象論	2後	2			○				1						
		老年看護援助論演習	3前	1				○			1		2			共同	
		老年看護学実習	3後	3					○		1		2			共同	
	小児看護学	小児保健医療学演習	2前	1			○			1	1					オムニバス	
		小児看護対象論	2後	2			○			1							
		小児看護援助論演習	3前	1				○		1	1		1			共同	
		小児看護学実習	3後	2					○	1	1		1			共同	
	母性看護学	母性保健医療学演習	2前	1			○								兼1		
		母性看護対象論	2後	2			○				1						
		母性看護援助論演習	3前	1				○		1	1	1	2			共同	
		母性看護学実習	3後	2					○	1	1	1	2			共同	
	精神看護学	精神保健医療学演習	2前	1			○			1		1				オムニバス	
		精神看護対象論	2後	2			○			1		1				オムニバス	
		精神看護援助論演習	3前	1				○		1		1		1		共同	
		精神看護学実習	3後	2					○	1		1		1		共同	
	統合分野	在宅看護学	在宅看護学概論	2後	2			○		1							
			在宅看護援助論演習	3前	2				○	1		1		1		共同	
			在宅看護学実習	3後	2					○	1		1		1	共同	
		看護の統合・実践	早期体験実習	1前	1					○	7	3	4	1	1		共同
			総合看護学実習	4前	2					○	7	4	5	6			共同
			災害看護論	4後	1			○								兼1	
			看護管理論	3前	1			○			1						
			救急救命学演習	3前	1			○			2					兼3	オムニバス
			看護研究方法論	3前	1			○			3	3	1				オムニバス
			看護研究	4通	2				○		10	4	6	12	1		共同
			看護ゼミナールⅠ	1後	1				○		8	4	6	12	1		共同
			看護ゼミナールⅡ	2後		1			○		8	4	6	12	1		共同
			看護ゼミナールⅢ	3後		1			○		8	4	6	12	1		共同
			看護ゼミナールⅣ	4後	1				○		8	4	6	12	1		共同
	臨床看護技術論	4後		1		○			3	1	3	5			共同		
	感染看護論	4前		1		○			1								
	看護英語	4前		1		○								兼1			
	専門展開科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1後	2			○		1							
公衆衛生看護方法論Ⅰ			2前	2			○		1			1			オムニバス		
公衆衛生看護方法論演習Ⅰ			2後		2		○			1			1		共同		
公衆衛生看護方法論Ⅱ			3前		2		○		1				1		共同		
公衆衛生看護方法論演習Ⅱ			4前		1			○		1				1	共同		
公衆衛生看護活動論Ⅰ			3前		2		○			1				1	オムニバス		
公衆衛生看護活動論Ⅱ			4前		2		○			1				1	一部共同		
学校保健			4前		1		○			1							
公衆衛生看護学実習		4通		5				○	1				1		共同		
助産学		周産期医学Ⅰ	3前		2		○								兼1		
		周産期医学Ⅱ	3前		2		○								兼1		
		助産論演習	2後		1			○		1							
		地域母子保健	3後		1		○			1		1				オムニバス	
		助産診断技術学Ⅰ	3後		2		○				1						
		助産診断技術学Ⅱ	3後		2		○			1	1	1				オムニバス	
		助産診断技術学Ⅲ	4前		2		○			1	1	1				オムニバス	
		助産管理論	4前		2		○				1						
		助産診断技術学演習	4前		3			○		1	1	1	2			共同	
	助産学実習	4後		11				○	1	1	1	2			共同		
小計(86科目)		—	98	53	0			—	11	4	6	11	1	兼21	—		
合計(129科目)		—	104	117	0			—	11	4	6	11	1	兼48	—		
学位又は称号	学士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
教養教育科目24単位以上、専門教育科目100単位以上を修得し124単以上修得すること。 教養教育科目の24単位以上には、「初年次教育」の科目区分より必修6単位を含む8単位以上、「就業力育成教育」「品格教育」「健康とからだの教育」「外国語教育」の科目区分より、それぞれ2単位以上、「歴史・言葉・知恵の教育」の科目区分より4単位以上修得のこと。 専門教育科目100単位以上には、「専門基礎分野」26単位、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」51単位、「統合分野」より必修科目17単位、選択科目2単位以上、「専門展開科目(公衆衛生看護学)」より4単位以上を含めなければならない。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期))						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	保健医療学特論	<p>保健・医療・福祉チーム医療の中で専門職として中核的な役割を担うために、現代の保健医療分野の現状と課題について理解するとともに、多職種間の連携や協働の課題及び専門職としての役割や支援のあり方について知識を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 登喜和江/7回) ※ガイダンス及びまとめを含む 看護学分野からみた保健医療分野の現状と課題についての考察を通して、看護学分野における諸課題を解決するための研究活動等の動向についての理解を深める。</p> <p>(6 土井有羽子/4回) 地域で実践する看護職の活動の場としての行政機関における保健福祉活動の実践事例の考察を通して、地域で展開する看護に対する理解を深める。</p> <p>(22 平松瑞子/4回) 多職種間の連携や協働のあり方及び課題について、具体的な事例を取り上げながら考察することで、保健・医療・福祉における専門職の役割及び機能についての理解を深める。</p>	オムニバス方式
	ヘルスプロモーション特論	<p>国や地域の健康づくり対策や健康問題への取り組みなどの考察を通して、看護実践に影響を及ぼし決定を下す際の重要な概念である健康についての知識を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 中島敦子/6回) ※ガイダンス及びまとめを含む 現代社会における児童生徒の健康実態や健康課題についての考察を通して、児童生徒等の健康保持や健康増進のための支援のあり方についての理解を深める。</p> <p>(16 石井敦子/6回) 健康日本21の策定背景やねらいについて概説したうえで、健康づくりを推進するための健康政策の取組みについて、具体的な事例を取り上げながら考察する。 また、生活者の視点に立った健康づくりや健康増進について概説したうえで、生活の質を高め、最適な生活を送るための健康支援のあり方について考察する。</p> <p>(12 佐藤文子/3回) 在日外国人を取り巻く保健医療や健康支援活動についての考察を通して、在日外国人の健康意識や生活習慣と健康状態の関連性について理解を深める。</p>	オムニバス方式
	医療安全特論	<p>医療現場における安全管理をめぐる取り組みや医療事故発生メカニズムについての理解を深めるとともに、医療安全の観点から、感染症の最新の動向及び院内感染を起こしやすい微生物と院内感染予防対策についての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 福嶋教偉/13回) ※ガイダンス及びまとめを含む 医療現場における安全管理をめぐる取り組みや医療事故発生メカニズムについて解説したうえで、医療安全の事例検討を通して、医療事故の防止にむけた他職種との連携や情報収集について理解を深める。 社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察するとともに、質の高い看護を効果的・効率的に提供するための戦略や役割機能の展開について検討する。</p> <p>(4 白木公康/2回) 感染症を引き起こす病原微生物に関する知識、感染症の病態及び診断や治療と予防に関する考察を通して、看護実践における医療関連感染の予防と管理を実践するための能力の向上をはかる。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義16時間 演習8時間 実習6時間</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	保健統計特論	保健医療領域の研究で必要となる科学的根拠としてのデータの重要性、量的データを取り扱う際の考え方、データのパターンに応じた具体的な方法論、分析結果の解釈の仕方、看護実践への応用方法などについての理解を深めるとともに、看護研究に必要となる保健統計の見方や留意点及びデータの解析方法、看護研究に関する各種データの統計的解析と結果の解釈についての理解を深める。 (19 平 和也／全15回)	
	医療情報特論	看護実践の場において研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得するとともに、情報倫理の観点から医療情報の適切な取り扱いについての理解を深める。具体的には、患者情報（個人識別情報）を含む医療情報について解説したうえで、医療情報の収集と活用や文献検索によるエビデンスの確認及び情報倫理の観点から医療情報の適切な取扱いや管理について理解を深める。 (20 多田賀津子／全15回)	
共通科目	看護倫理特論	看護実践の場において対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するための倫理について理解を深めるとともに、医療倫理の事例検討を通して、実践活動への反映について考察する。 (オムニバス方式／全15回) (9 平尾明美／8回) ※ガイダンス及びまとめを含む 看護職者の倫理的意思決定の基盤となるケアリングの概念の考察を通して、クリティカル領域における倫理的課題を解決のための知識と能力を高める。 (18 澁谷 幸／7回) 看護実践上の倫理的概念と臨床倫理のアプローチについて解説したうえで、医療現場の事例をもとに、倫理的課題の解決に向けて考えるプロセスについて考察する。	オムニバス方式
	看護理論特論	看護実践の支えとなる代表的な理論を取り上げ、看護理論と看護理論を活用するための知識を高めるとともに、看護理論を用いた具体的な実践方法の考察を通して、臨床現場での応用に結びつける能力を高める。 (オムニバス方式／全15回) (1 登喜和江／8回) ※ガイダンス及びまとめを含む 対応の難しい様々な患者の例をあげ、看護理論の視点からの分析を通して、臨床における問題解決のための実践的な看護理論の活用方法についての理解を深める。 (7 中尾友美／7回) ストレスコーピング理論の活用による高血圧患者に対する患者教育指導実践の展開事例についての考察を通して、臨床で役立つ看護理論についての理解を深める。	オムニバス方式
	フィジカルアセスメント特論	部位別の身体診察の手技を高めるとともに、年齢の変化や特徴をとらえた身体診察及び状況に応じた身体診察についての理解を深めることで、フィジカルアセスメントを基盤とした看護ケア能力を高める。 (オムニバス方式／全15回) (9 平尾明美／5回) ※ガイダンス及びまとめを含む 救急医療の状況に応じた身体診察の考察を通して、必要な看護ケアを明確にし、根拠に基づく看護ケアを提供するためのフィジカルアセスメントを基盤とした看護ケアについて理解を深める。 (23 福嶋教偉／10回) 身体診察基本手技及び部位別身体診察手技についての知識と能力を高めるとともに、身体診察の年齢による変化及び救急医療や在宅医療などの状況に応じた身体診察についての理解を深める。	オムニバス方式 講義22時間 演習4時間 実習4時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護管理特論	<p>看護管理の本質と特徴及び看護実践の場面における看護管理の実践や課題についての考察を通して、実践の場において質の高い看護サービスを提供するための看護管理に関する応用能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 青山ヒフミ／12回) ※ガイダンス及びまとめを含む 実践の場における質の高い看護サービスの展開と質の高い看護サービスを支える人的資源の開発に向け、基盤となる看護管理の諸理論の探求及び看護管理実践上の課題とその背景について考察する。</p> <p>(3 合田友美／3回) 看護基礎教育と継続教育の連携の重要性について解説したうえで、看護職者の離職理由と離職率を下げるための支援方法及び看護現場における自己効力感の考え方について人材育成の観点から考察する。</p>	オムニバス方式
共通科目	臨床病態生理学特論	<p>主要な疾患や病態の成因と仕組みに関する最新の知見の理解及び各種臓器の構造に関する知識並びに身体機能の病態生理学的変化を判断するための知識など、EBNの基盤となる病態生理学に関する知識を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(15 長井 薫／7回) ※ガイダンス及びまとめを含む 病態生理の理解のために必要となる人体の構造と機能に関する知識を深めるとともに、演習を通して、主要な疾患や病態の成因と仕組み及び各種器官や臓器ごとの疾病の特徴について理解を深める。</p> <p>(14 實智智子／7回) 症状や徴候の原因となる病態生理の理解及び主要な疾病と症状の関連について知識を深め、演習を通して、機能異常を起こした疾患の病態生理学的変化の理解及び判断するための知識を深める。</p> <p>(4 白木公康／1回) 感染症を引き起こす病原体の構造や分類と病原体の感染力と体の抵抗力とのバランスについて理解を深めるとともに、代表的な自己免疫疾患及び免疫不全症の発症機構についての理解を深める。</p>	オムニバス方式 講義26時間 演習4時間
	臨床推論特論	<p>看護実践における臨床推論の思考過程の理解及び患者の状態を把握する各種臨床検査や画像検査による診断、診療行為や検査・治療法などの有効性や効率性を評価する手法について理解を深める。 また、臨床推論プロセスにおける医療面接の模擬体験学習を通して、医療面接の結果から患者の状態を推論し、必要な身体所見や臨床検査を基に治療方針につなげる推論技術について理解を深める。</p> <p>(11 伊藤朗子・17 伊藤壽記／全15回) (共同)</p>	共同 講義18時間 演習10時間 実習2時間
	臨床薬理学特論	<p>薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と主要薬物の薬理作用や副作用及び主要薬物の相互作用や主要薬物の安全管理と処方など、看護ケアにおける安全確実な薬剤投与や薬物管理を行うための知識を深める。 具体的には、主要薬物の薬理作用や副作用について、小児や高齢者など年齢による特性を含む知識の理解を深めるとともに、主要薬物の相互作用及び主要薬物の安全管理と処方に関する知識の理解を深める。</p> <p>(21 東照正／全15回)</p>	講義20時間 演習10時間
	疾病・臨床病態特論	<p>主要疾患の病態と臨床診断や治療についての理解を深めるとともに、様々な年齢や対象者の状況に応じた救急医療や在宅医療の臨床診断や治療の特性について理解を深めることで、看護提供における病理学的な視点を活用するための能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 石川秀明／14回) ※ガイダンス及びまとめを含む 主要疾患の病態と臨床診断や治療についての知識を深めるとともに、病期及び年齢や対象者の状況に応じた救急医療や在宅医療における臨床診断や治療の特性について理解を深める。</p> <p>(4 白木公康／1回) 感染症の感染経路や経過及び感染症による疾患と特徴について理解を深めるとともに、感染症による敗血症を取り上げ、その症状や診断と治療介入について理解を深める。</p>	講義22時間 演習8時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
領域科目	療養生活支援看護特論	<p>病院や在宅で治療や療養をしている人々を対象とする看護に関する理解を深めるとともに、対象者の疾病治療や健康回復と健康保持や疾病予防など、看護過程の特徴や構成要素に応じたケア機能を高める援助について探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(10 藤田俱子/6回) ※ガイダンス及びまとめを含む 地域在住の前期高齢者における筋肉量と体脂肪率及び歩行速度の考察を通して、低筋肉量や高体脂肪率が歩行速度や身体活動量などの生活機能に及ぼす影響について理解を深める。</p> <p>(1 登喜和江/6回) 脳卒中後遺症としての痛みを伴うしびれに対する足浴後マッサージの効果についての考察を通して、脳卒中患者の症状軽減を支援する看護介入のあり方についての理解を深める。</p> <p>(11 伊藤朗子/6回) 腎・泌尿器の器官系統における解剖と生理についての考察を通して、身体の仕組みと働きをフィジカルアセスメントにつなぐ知識及びアセスメントの結果をケアや観察につなげる判断能力を高める。</p> <p>(9 平尾明美/6回) 救急場面における対処すべき緊急対応や救急処置についての考察を通して、緊急度や重症度の高い患者に対する集中的な看護の提供と患者本人やその家族の支援に関する知識の理解を深める。</p> <p>(7 中尾友美/6回) 就労している2型糖尿病患者のための生活時間のマネジメントを活用した看護介入方法についての考察を通して、糖尿病患者のセルフケアや糖尿病療養支援についての理解を深める。</p>	オムニバス方式
	療養生活支援看護演習	<p>※全15回 (1 登喜和江・7 中尾友美・9 平尾明美・10 藤田俱子・11 伊藤朗子) (共同)</p> <p>俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。 具体的には、病院や在宅で治療や療養をしている人々を対象とする看護における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための能力を高める。</p>	共同
	地域・家族支援看護特論	<p>地域の多様な場で生活する人々の健康の維持や改善及び生活の質の向上を支援する看護に関する理解を深めるとともに、多様な場や対象者の特性に応じた健康生活の保持増進と健康回復にむけたケア機能を高める援助について探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(6 土井有羽子/6回) ※ガイダンス及びまとめを含む 地域で生活する女性高齢者の自宅内転倒の実態と要因についての考察を通して、自宅内転倒と住宅環境との関連及び住宅環境の改善に着目した転倒予防の支援のあり方についての理解を深める。</p> <p>(5 田中恵子/6回) 育児期における夫婦間の相互ケアの特徴及び母親の育児不安や育児ストレスに影響を与える要因についての考察を通して、妊娠期・分娩期・育児期における家族内ケアのあり方について理解を深める。</p> <p>(8 中島敦子/6回) 学校保健における対象の特徴と健康相談や保健指導のあり方について解説したうえで、学校における救急体制と救急処置の進め方及び感染症予防や拡大防止など学校保健活動について理解を深める。</p> <p>(3 合田友美/6回) 食意識と食行動に影響を及ぼしている要因の分析を通して、食生活や食生活習慣についての理解を深めるとともに、食行動変容にむけた効果的な食生活支援について理解を深める。</p> <p>(12 佐藤文子/6回) 在日外国人を取り巻く保健医療に関する現状と課題についての考察を通して、保健医療に関する問題を抱える在日外国人に対する健康支援のあり方についての理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
領域科目	地域・家族支援看護演習	<p>※全15回 (3 合田友美・5 田中恵子・6 土井有羽子・8 中島敦子・12 佐藤文子) (共同)</p> <p>俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。 具体的には、人々の健康の維持や改善及び生活の質の向上を支援する看護における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための能力を高める。</p>	共同
研究科目	看護研究方法	<p>質の高い看護を提供するための課題解決に必要となる研究活動に関する能力を高めるとともに、看護研究における倫理的配慮についての理解を深める。具体的には、看護実践を質的又は量的側面から扱う研究活動に必要な文献研究・事例研究・実験研究から面接法や質問紙法などの研究手法について学修するとともに、対象者の人権擁護や研究不正の回避など、看護研究における倫理について学修する。</p> <p>(10 藤田俱子/全15回)</p>	
	看護特別研究	<p>研究指導教員による入学から修了までの継続的な研究指導体制をとるものであり、学生の研究計画に対応する個別指導を中心として、修士の学位に相応しいレベルの論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。具体的には、自己の研究課題の設定にはじまり、研究計画の立案・調査・分析から論文の作成、研究成果の発表へと結び付けていくことにより、基礎的な研究能力の修得を図る。</p> <p>(1 登喜和江) 脳卒中患者に対する脳卒中後遺症による痛みやしびれの症状軽減を支援するための看護介入について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(2 青山ヒフミ) 実践の場における質の高い看護サービスの展開とキャリア開発に向けた看護管理の諸理論について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(3 合田友美) 看護基礎教育と継続教育の連携のあり方及び看護職者の離職理由と離職率を下げるための支援方法について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(4 白木公康) 感染症を引き起こす病原微生物の特徴及び施設や地域における感染経路と感染予防や感染対策について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(5 田中恵子) 母親の育児不安や育児ストレスに影響を与える要因及び育児期における夫婦間の相互ケアについて研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(6 土井有羽子) 地域で生活する女性高齢者の自宅内転倒と住宅環境との関連性及び自宅内転倒予防の支援について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(7 中尾友美) 慢性疾患としての糖尿病患者の療養行動と療養指導及び糖尿病患者に対する療養支援技術について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(8 中島敦子) 学校保健における児童生徒の健康保持や健康課題の把握と支援及び感染症予防や救急処置対応について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(9 平尾明美) 初期医療を含めた緊急度の高い患者・家族への対応や重症度の高い三次救急初療における看護実践について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(10 藤田俱子) 地域在住の前期高齢者における正常体重肥満者とメタボリックシンドロームリスクとの関連について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(11 伊藤朗子) 看護過程の展開方法を看護現象から判断する看護診断及び看護診断の臨床実践への応用について研究実践と論文指導を行う。</p> <p>(12 佐藤文子) 在日外国人に対する健康意識や生活習慣の変容を促すための看護介入と健康支援のあり方について研究実践と論文指導を行う。</p>	

学校法人金蘭会学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千里金蘭大学 看護学部 看護学科 90 — 360 生活科学部 食物栄養学科 80 — 320 児童教育学科 70 — 280 <hr style="border: 0.5px solid black;"/> 計 240 — 960				千里金蘭大学 看護学部 看護学科 90 — 360 生活科学部 食物栄養学科 80 — 320 児童教育学科 70 — 280 <hr style="border: 0.5px solid black;"/> 計 240 — 960 千里金蘭大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (M) <u>6</u> — <u>12</u> <hr style="border: 0.5px solid black;"/> 計 <u>6</u> — <u>12</u>				大学院の設置（認可申請）